

“Mastery for Service”を体現する 世界市民を育てる



神余隆博（しんよ・たかひろ）
関西学院大学副学長（国際戦略担当）
関西学院大学国際戦略本部長
香川県琴平町出身。大阪大学卒業後、1972年に外務省に入省。2002年在デュッセルドルフ日本国総領事、2005年外務省国際社会協力部長、2006年国際連合日本政府代表部特命全権大使、2008年在ドイツ特命全権大使などを歴任。1996年博士号（法学）取得。大阪大学教授、東京大学大学院客員教授、デュッセルドルフ大学客員教授なども務め、2012年4月から現職。「法学・政治学特講B（新国連論）」「外交政策論」「International Relations of Japan」などの講義を担当。ドイツ功勞十字勲章、フランス・シュバリ工勲章を受章。趣味は絵画鑑賞・アートエ巡り。

関西学院は創立120周年を迎えた2009年を起点として、10年後を見据えた新基本構想を策定し、関西学院大学の目指す人間像として「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を掲げました。

関西学院大学ではさまざまな国際化施策が展開され、世界市民育成のための教育プログラムは2011年には文部科学省の「平成23年度大学の世界展開力強化事業」に、2012年には「平成24年度グローバル人材育成推進事業（全学推進型）」に採択され、今後ますます関西学院大学の国際化が推進されようとしています。

第一部 神余隆博副学長インタビュー

2012年4月から関西学院大学副学長国際戦略担当に就任された前駐ドイツ日本国大使の神余隆博副学長に話を聞きました。



ー 外交官から大学の副学長へと転身されました。

40年間外交官として生きてきて、自分なりに役割を全うしたと感じていました。リタイアの時期も近づいていたところに、関西学院大学から国際戦略担当として、大学の国際化を担ってほしいとお話をいただきました。これは大変うれしかったですね。

関西学院大学には「国連セミナー」という学生の国外研修があり、関学生は毎年ニューヨークにある国連を訪れます。私が国際連合の次席大使だった時には、関学生に国連に関する講義を2度ほどしたこともあり、非常に縁を感じました。

また、私は四国の香川県出身なのですが、周りに関学の卒業生が結構いて、非常に親近感がありました。関西学院大学は定評のあるいい大学だと知っていたわけです。

ー 着任後の関西学院大学の印象をお聞かせください。

キャンパスが美しいということはもちろんですが、大学に漂う雰囲気がとても温かいですね。一度関西学院に来たら、誰もが好きになるのではないのでしょうか。キリスト教の精神が根付いているのでしょう。みんな非常にリベラルで親切です。学生は性格のいい子が多いですね。それでいて、芯がしっかりしています。気張らない強さ、自然体の長期的な強さを持つていると思います。それはやっぱり、“Mastery for Service”（奉仕のための練達）というスクールモットーがあらゆる場で指針となり、それを学院全体で共有しているからでしょうね。

これは、国際化という観点においては非常に意味のあることです。私は40年間外交に携わってきましたが、その中で得たものは「外交とは奉仕」ということでした。国に奉仕をし、それを通じて世界に奉仕をしてきたつもりです。まさに“Mastery for Service”なので、私がやっ

てきたことを端的に言い表しているのです。このために私は外交官になったのだと再認識させていただきました。

ー 関西学院大学は世界市民を育成することを目標にしていますね。

世界市民になることは非常に難しいことです。それなのに、それをターゲットに置いて、しかも言い切ってしまう。これは分かりやすいし、大変高邁です。関西学院大学が一層好きになりました。

そこで、関西学院大学を大いに紹介したいと思うようになりました。大それたことを言うようで申し訳ないのですが、次の私の使命があるとするば、関西学院大学のことを世界に知ってもらうことだと思つたわけです。



在ドイツ大使時代にメルケル首相と立ち話をする神余副学長

関西学院の
スクールモットーは
外交の精神と一致する

激動の時代を 外交官として生き PKOの派遣など 国際貢献に尽力

― 関西学院大学への熱い思いをお聞きして大変うれしく思います。外交官時代の印象的な出来事などがあれば教えてください。

やはり湾岸戦争です。米ソの冷戦が終わったと思っただけで、湾岸戦争が始まり、日本は「お金は出すけど人道的な貢献はしない」と国際貢献のあり方を問われる事態になりました。私が担当の課長として成立に関与した法律が「国際連合平和維持活動（PKO）に日本の要員を派遣することができるとした国際平和協力法」です。当初は日本国内では反対論があり、非難を受けました。紆余曲折を経て成立したこの法律に基づいて部隊を出した最初の地・カンボジアで国連ボランティアとして活動していた中田厚仁さんと文民警察の高田晴行警視が殺害される事件が起

きました。本当にショックでつらい思いをしました。もう引き上げた方がいいのではという声も強まりましたが、当時の宮沢喜一総理がどまるべきだと最終決断をしました。

その後、中田さんの父上である武仁さんが、ご子息の遺志を継ぎ、「中田厚仁記念・国連ボランティア活動支援事務所」と「中田厚仁記念基金」を開設し、国際ボランティア活動の支援や激励を続けてこられました。こういうことが礎となつて、今日の国際貢献、国際ボランティアがあります。これは非常に思い出深い出来事でした。

― 関西学院大学も国連学生ボランティアを開発途上国へ派遣していますね。

アジアの大学では初めて、世界で3番目に国連ボランティア計画（UNV）と協定を結び、学生を派遣しています。2004年からこれまでに70人が派遣され、確実に成長して帰ってきています。途上国で活動すると

いうことは100%リスクフリーではないんですね。ある程度のリスクがあることをちゃんと分かった上で、でもそれを上回る意志で学生は行くのです。これは素晴らしいことです。私も同じ思いで外交をやってきましたから、このような高い志を持つ大学で国際戦略を担当させていただくことを、とても誇らしく思っています。

国際的に活躍できる人を：育てるための教育システムや大学の在り方を考える

― 神余先生は国際戦略本部長でもあります。国際戦略本部の位置付けをお聞かせください。



世界市民 W.R. ランバス

関西学院は、1889年キリスト教メソジスト派の宣教師 W.R. ランバスによって創立されました。W.R. ランバスは、アジア、北米、ヨーロッパはもちろん、はるか遠くアフリカ、南米、シベリアの地で、医療宣教師として、人びとを救うため、国境や民族の壁を越えて働き、世界市民としての生涯を送りました。

関西学院のミッションとスクールモットー

関西学院のミッションは創立者 W.R. ランバスのように、思いやりと高潔さをもって社会を変革する世界市民を育成することにあります。今日、世界はさまざまな課題に直面しています。いままも世界のどこかには紛争や飢餓、貧困に苦しむ人びとがいます。日本でも東日本大震災によって、多くの人びとが困難に直面しています。このような困難や課題に対して正面から向き合い、苦しみ人びとのために社会を変革するのは私たち自身です。そのための力を養う。それが関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”の意味するところです。



カナダの3大学と協働 日加の学生が一緒に 両国を舞台に学ぶ クロス・カルチュラル・カレッジ

― 国際的なリーダーとなれる人を育てるためのシステムとは？

具体的なプログラムが2つスタートしています。一つは文部科学省の「平成23年度大学の世界展開力強化事業」に採択された日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ（CCLC）」です。

関西学院大学がカナダの名門3大学、マウント・アリソン大学、クイーンズ大学、トロント大学と協働して行うもので、両国の学生が寝食をともにしながら、課題の発見・解決に取り組めます。具体的には、関学生は留学や国際交流科目を必修とし、異文化社会の理解を深めるとともに、英語運用能力の強化を目指します。そして、多文化共生をテーマに、日本とカナダから20人

を、2人で組んでやりま

すから、ものすごく仲良くなり、カナダの学生は必ずしも日本語が上手ではないので、日本の学生が助

を、2人で組んでやりま



けます。その間に得られるものは、単なる技術の習得だけではありません。学生同士の深いコミュニケーションが図れるのです。この絆は卒業後もおそらく続いていくでしょう。

日本とカナダ、お互いに学び合えるということで、非常にいい試みだと思えます。日本の学生はカナダというさまざまな人種がいる国で多文化共生を学びますし、カナダにしても日本という異文化の国から学ぶことは多いでしょう。私も他の大学のいろいろな試みを調べてきましたが、関学ほど熱心に行っている所は珍しいのではないのでしょうか。文部科学省も注目しており、見学にいられて「関学さんのやっていることを、ぜひ他の大学にも知らせてください」とおっしゃるぐらい、高く評価してくださっています。この「CCLC」プログラムは5年間の予定ですが、参加した学生の同窓会みたいなものをつくってはどうか、という話も出ています。やりっぱなしではなく、その後も関係が続いていくようにしていきたいですね。

国連学生ボランティア

学生は赴任地に約5ヵ月間滞在し、現地の国連事務所などでウェブサイトの作成や社会調査、プロジェクト運営などに従事します。このボランティアに参加した学生には奨学金を支給するほか、単位も認定しています。派遣された学生たちの活動日誌は下記 URL から確認できます。

http://www.kwansei.ac.jp/c_ciec/c_ciec_001693.html



世界市民を全学を挙げて育成する 実践型世界市民 育成プログラム

— もう一つのプログラムはどういうものなのでしょうか。

実践型「世界市民」育成プログラムです。スクールモットー「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成を教育目的としてきた関西学院の取り組みをさらに拡大・発展するもので、文部科学省の「平成24年度グローバル人材育成推進事業（全学推進型）」に採択されました。先に述べた昨年度の文科省の世界展開力強化事業採択に続く、この採択は、関西学院が一人丸となって国際化を進める大変大きな原動力になると考えています。

このプログラムの特徴は、登録制の三つのコースがあり、「グローバルリーダー」50人、「グローバルエキスパート」150人、「グローバルシティズン」500人の計700人を毎年育成することです。

3つめは「国連ユースボランティア日本派遣センター」の立ち上げの構想です。国連の中に新しくユースボランティア（青年ボランティア）の制度を導入する動きがあります。これを受け、関学内に「国連ユースボランティア日本派遣センター」をつくり、学生の訓練をしようと考えています。これは学外の学生にもオープンにしたいと思っています。場合によってはアジアの学生も受け入れたいですね。実現すれば日本初です。国連ボランティア計画も文部科学省も外務省も認知してくれると思います。

中学や高校とも連携し 国際分野に 興味のある人材を 早い時期から育てる

— これから国際連携や国際化の分野で関西学院が注目されそうですね。

この5年間でかなり目立った存在になるでしょう。その分責任も重いです。でも思

入学した時から英語のレベルをきちんと分けて、どのコースに行くのかを募り、4年間かけて育成していくのです。また、「国連学生ボランティア」などの海外体験型の実践的教育カリキュラムを中心に据え、実践的科目を強化します。ネイティブの教員による英語のみの講義「英語インテンシブ・プログラム」コースも拡大し、英語力の強化をはかることで、「英語の関学」を復活させます。

これらの構想を2013年度からスタートさせるにあたり、新たなカリキュラムの構築や教員配置、留学を支援する体制の強化やコース修了者へのキャリアサポート、外国語力や海外経験を評価する入試制度の構築、教員のグローバル教育力の向上、などのさまざまな支援体制を整えている真つ最中です。

また、井上琢智学長のリーダーシップの下、学内各部局の協力を得て「実践型グローバル人材育成イニシアティブ」を設置。推進委員会を立ち上げるとともに、評価委員会も準備中であり、システムをうまく機能させられ

い切つてやるべき時だと思っています。

— 関西学院は中学部、高等部がありますが、この年代のグローバル人材の育成についてはどうお考えですか。

大学からではなく、その前段階から育てていくということは非常に意味がありますね。中学部や高等部の先生方とも協力して、国際分野に関心を持ってもらえるような教育と一緒にやっていく必要があります。

また、学院外の高校生には、関西学院大学には世界市民を育てる、こんな素晴らしいプログラムがあるんだということを知ってもらいたいといけません。先日東京にある国連大学の模擬国連を行っている場で先生方に関西学院大学の説明をさせてもらいました。模擬国連には高いレベルの高校生が参加していますから、そういうマインドを持った人に関西学院に入ってもらえれば、大学でのグローバル人材育成のプログラムへと、ずつつながっていくと考えています。

るよう、定期的に話し合いを持っています。

世界市民グローバル フォーラムや ネットワークの構築： 学外にも国際戦略を アピールしていく

— その他に具体的なプランがあれば教えてください。

まず、世界市民グローバルフォーラムの開催です。毎年、育成したグローバルリーダー等の学生たちが成果報告をし、一般の人たちや学生に聞いてもらうのです。また、世界市民と呼ぶにふさわしい人に来ていただいて講演をしてもらいます。2014年には関西学院の125周年にも重なりますので、大規模に開催したいと思っています。700人というのは選ばれた人たちですが、選ばれなかった人たちにも影響を与えるはずですよ。同じ大学にこんなに立派な人がいるんだと思ってもらえるだろうと思いますね。もちろん、学外の方にも関西学院

大学の素晴らしさを一緒に味わってほしいです。

2つめは、我々と同時に今回の事業に採択された大学を中心にして、西日本でネットワークをつくりたい。特色型で採択された神戸大学と組もうという話で動いています。グローバルな人材を育成するという領域はまだ確立されていません。失敗もあるでしょうし、問題も出てくるでしょう。だからうまくいったことやできなかったことを報告し合おうと。みんなで悩んでみんなで一緒に解決していこうということです。

つまり、グローバルな人材の育成は関西学院大学だけがよくなればよいという問題ではなく、日本全体がよくならないといけないのです。そのモデルを西日本で共有して、元氣のない日本を何とか立ち直らせたいと思っています。

この関学の構想はその後文科省の音頭で、全学型・特色型42の採択校を対象とし、4つの地域ブロックから成る大学間連携体制の発足に繋がっています。

神余副学長から卒業生へのメッセージ



関西学院大学が育成を目指している世界市民とは、世界の現場でも物怖じしない、いろいろな困難があっても慌てない、くじけない、行動できる真の意味のグローバルリーダーです。そのためには、さまざまな経験を学生にさせなければいけません。海外でのインターンシップもその一つです。そんな時、海外にいらっしゃるOB・OGの方にご協力いただけたら大変ありがたいと考えています。また、「CCC」プログラムではカナダと日本の学生がペアでインターンシップを行うので、国内のインターンシップ先も必要です。ですので、ぜひインターンシップの場を提供していただきたいと思っています。卒業生も含めた関西学院全体で世界市民を育てていくことにぜひご協力願います。

関西学院は日本一を目指すべきだと思います。アメリカンフットボールやグリークラブの強さは定着していますし、キャンパスの美しさも日本一でしょう。さらにこれからは国際化、世界展開という分野でトップレベルの大学になりたいと思います。

卒業生の皆さんも大いにスクールモットーを実現して大活躍してください。そして、関西学院をアピールしていきましょう。